

調査報告

中国における生涯学習の実態についての一考査

劉 潔*, 大橋 眞**

Observation of the current status of life-long learning in China

Ketsu Ryuu and Makoto Owhashi

概要

中国にとって生涯学習の普及はこれからの社会的基盤の整備における重要な課題となっている。これまで、国の政策で進められてきた教育界に私立学校の参入が始まり、国と民間の間での良い意味で刺激し合う環境が整いつつある。また、近年における急速な経済発展により、教育関係のインフラ整備も進んできている。しかしながら政府関係者の間で「知的な能力は最大の資源であり、教育への投資こそが最大の効果を生み出せる」という認識がいまだに希薄であり、社会教育機関に対する予算配分は十分とは言えない。また、生涯学習推進のための専門的な組織や機関がほとんど無いために、具体的な生涯学習の発展戦略や計画・方針などが組織的なレベルでは練り上げられていないという問題もある。本論では、このような中国が直面している生涯学習発展のための課題について検証する。

1. 緒言

生涯学習の思想は東西を問わず古くから存在しており、その多くは地域の中で自主的に行われてきた。現代は情報化社会及び知識経済の時代であり、これに伴って生涯学習の発展を促進させる要素が増えてきている。このような背景をもとに、多様な形態の生涯学習の発展がみられるようになり、生涯学習の重要性を再認識することが世界の潮流になってきた。

中国においては、生涯学習の理念は民間研究者により導入されたが、現在では政府をはじめとして、社会の各界において生涯学習の重要性が指摘されるようになってきた。これまで諸外国の生涯学習の様々な取組例を経験的に学びつつ、中国の国情に合わせた形で生涯学習の取組を発展させてきた¹⁻³⁾。このように中国では、社会の教育力の向上をめざして、中国独自の生涯学習の形式を社

*青島理工大学外国語学院

**徳島大学ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

会の中に浸透させた形の社会構築に取り組んでいる。現時点においては、「人口が多い」、「平均的な学校教育のレベルが必ずしも高いとは言えない」、「義務教育の普及率も他の先進国に比べると不十分である」などという中国が抱えている実情がある。今後は、生涯学習の様々な方法と手段についてさらに開発を進めながら発展させるために、それぞれの有利な条件と不利な原因を明らかにして生涯学習発展の方向性に示唆を与えるような探求をしていくことは有意義であると思われる。このような点を踏まえて、中国の生涯教育がこれまでどのように展開されてきたかについて、その特色を中心に紹介しながら、今後の課題について考察する。

2. 現在の中国における生涯学習の現状

現在の中国における生涯学習の発展に有利な条件は以下のようにまとめられる。

- ① 生涯学習の体系は政府の支持がなければ推進できない。中国政府により制定された「21世紀に向けた教育振興計画」の中において、「教育を優先的に発展させることが、あくまでも重要な戦略である」と明示されている。このように生涯学習を含む教育の発展が国家の発展の重要な柱として位置づけられている¹⁾。
- ② 生涯学習に対する根強い社会的ニーズがある。グローバル化社会の到来に伴って、人々が新しい知識を習得し、職業技術を身につけ、自分自身の素質を高めるような高いレベルの教育を求めるニーズは強くなる一方である¹⁾。
- ③ 各界の力による民間教育が迅速に発展していることである²⁾。私立学校や民間教育、職業訓練機関は活気が溢れ、政府と社会とが共同で教育を行う仕組みが出来上がりつつある。
- ④ 先進技術や先端の公開された情報が教育の場において活用されるように、一定レベルの情報インフラが整備されている。

このように有利な条件が有る反面、いくつかの不利な要因の存在も指摘されている。

- ① 現段階においては、教育への期待が大きいのが、広大な国土を抱える中国では、教育の機会を国民に均等に提供することに対する社会的基盤整備はいまだに不十分である。
- ② 景気後退の影響を受けて、企業内の教育は継続力が弱くなり、多くの企業は功利主義のもとで、管理職や労働者を採用する際に、即戦力になるという条件を重視することが多くなってきた。その結果として、企業内の教育により社員の能力向上を図ることを軽視する風潮が強くなってきた。
- ③ 政府部門の管理者には、「知的な能力は最大の資源であり、教育への投資こそが最大の効果を生み出せる」という認識がいまだに希薄である。そのため、政府は社会教育機関に対する予算配分には極めて消極的だと言っても過言ではない。
- ④ 生涯学習推進のための専門的な組織や機関がほとんど無いために、具体的な生涯学習の発展戦略や計画、方針などが、組織的なレベルでは練り上げられていない。

以上、有利な条件と不利な要因をまとめてみたが、このような背景をもとにして、中国の特色のある生涯教育がこれまでどのように展開されてきたかについて、事例を挙げながら紹介してみたい。

現代の生涯教育システムは、学校教育を基盤として、企業教育や社会教育などに加えて、最近マスメディアを用いた遠隔教育やインターネットなどを用いた教育などが普及し、幅広い層に教育を受ける機会が提供されるようになってきた。これらの社会教育基盤の整備に加えて、家庭レベルの教育基盤の拡充が重要な要素になっている。

- (1) 学校教育システムは生涯教育システムの基盤である。その学校教育システムの役割は、①学生の生涯学習のための基礎的学力を形成する ②社会のニーズに応じ、生涯教育の場を提供する ③社会における生涯教育と連携して、お互いに高める働きをするという3つを挙げることが出来る。

学校教育における生涯学習の一例としてハルビン工業大学の例をあげる。同大学は、「全国成人高等教育評価優秀学校」という称号を授与されており、中国で最初に成人高等教育の課程を開設した。この大学の生涯教育は、学位取得を目的としない非学歴教育と、学位取得を目的とした成人学歴教育からなっており、さらに生涯教育を充実させる方向に改革が進行している。同大学における成人学歴教育は「特色のあるレベルの高い教育を行い、一流の学院を目指す」という目標を定めている。特に応用力を重視して、「一主両翼」という方針を打ち出している。即ち、「一主」は競争力を高めるために、専門の実技を充実させコンピューター技術、外国語の習得にも力を注ぐことを旨としている。また、「二翼」は学生が大学の卒業証明書をもらう同時に専攻技術の資格を取得できる二つの資格を取る制度である。同大学は、学生が自由に講義を選択できる単位制を採用しており、卒業の繰り上げや延期もできるような配慮がされている。さらに同大学の特筆すべき特色として、産業と研究を結びつける産学協同体制の構築にも積極的に取り組んでいることが挙げられる。教員は関係する企業の新しい技術や発明を、題材として授業の中に組み入れて、自らの授業を進めるような取り組みが行われている。実際にこの生涯教育を受ける人の多くが、企業の技術者や管理者であるために、教員と一緒に研究課題に取り組むことにより、企業の活動にも還元できる研究を展開することが可能となる。そのために、このような形式の生涯教育の推進は、大学の科学研究だけでなく、産業界の発展にも大きなプラスの効果を与えると期待されている²⁾。

中国では、少子化問題が深刻になると共に、学生の確保に関しての大学間の競争も激しくなりつつある。大学が生き残るために、自ら特色を創り、新しい市場を開拓しなければならない。この競争力を高めるため、特色のある生涯教育の充実を図ることは極めて重要な役割を持っていると言えよう。①地域社会の需要や学校の置かれている条件によって、自学の特色を再認識し、教育市場において最適なポジションを定めることが可能となる。②近代的な情報技術などを活用し、ネットワークを通じて、より広い地域をカバーしながら、より多くの人々が勉強できるような教育システムを構築することが出来る。③国内において、このような教育システムの教育効果を検証し、将来的には海外の教育市場へ進出していくも可能である。

(2) 職業資格教育を主とする教育は3つの要素から構成されている。すなわち、1つ目は業界を主とする職業資格教育である。また、2つ目は企業を主とする在職の育成訓練であり、この中には知識、技術を更新する育成訓練なども含まれている。さらに3つ目は、多業界にまたがる転業、転職のための訓練である。業界の育成訓練システムはこれらの3つの要素が三位一体の形をとって、お互いの機能を高める効果を持っている。このような職業人の育成訓練システムは経済、科学技術と社会の発展の実態をしっかり結びつけており、社会と教育を受ける者の需要に応じて、数多くの形式の教育、育成訓練が開発されて、教育の現場で実施されてきている。

(3) 社会教育システムは、地域全体の社会人を対象としており、より広い社会組織と社会の活動場所に浸透する役割を持っている。その主な機能は ①学校教育の補充、校外教育に協力すること ②社会化の職業の育成訓練 ③レジャー、文化生活の教育 ④社区 (community) 建設、大衆のメディアの普及などを挙げることが出来る。社会教育は地域を基盤とした独特な教育システムであり、生涯学習に貢献している。

ここでは、中国の独特の社区建設について少し述べてみよう。

「社区」は「一定地域の範囲内に住む人々によって構成される社会生活の共同体」である。現代の中国では、この「社区」が、様々な局面において住民の生活を支える新しい受け皿になっており、重要な役割を果たしている。例えば団地のような居住形態の地域においては、地域コミュニティの再生、治安、衛生、福祉、教育、文化活動などの役割を担っており、「何でも屋」の役目を果たしている。学習型の社区においては、区内の住民の生活とその発展などの生涯学習ニーズに応じて、育児教育、未成年教育、退職・失業者などを対象とした技能トレーニングや、一般住民全員向けの科学文化、社会生活などを題材とした教育やトレーニングなどが様々な形で展開されている (図1, 2)。このような活動を通して、住民全体の素質と生活のレベルを向上させ、社



図1 青島市内の社区における生涯学習
(集団演技)

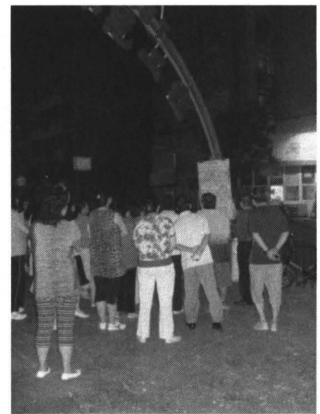


図2 青島市内の社区における生涯学習に
関する掲示

区の継続的な発展を促進することを目指している。また、社区ボランティア活動は、その活動内容は極めて多岐にわたっている。住民の健康福祉に関する活動として、介護の必要な老人や身体障害者の介助をしながら、その生活向上の手助けを行うという活動がある。また区内の宣伝掲示板や黒板新聞の学習内容を定期的に更新する活動を行っている。区内には、訓練場が一つ以上あり、朝晩にリーダーの指導のもとで、健康増進のための太極拳やフィットネスの活動が行われている。

- (4) ネットワーク教育システムは、地域や学校、さらには国と国とのしきりを突破して、インターネットを通じて教育資産の共有をおこなうことが可能となってきている。また、このような教育ネットワークシステムの構築により、各教育機構の組織的なバリアを越えて、相互に連結と協力をおこなうことも可能になってきた。

中国では、1999年から現代遠隔教育プロジェクトが創設されており、2001年夏には有名な8大学にネット教育学院が開設された。このネット教育学院は、「量の拡大、質の向上」という中国の教育方針を実現させる場としての機能が期待されている。現在ネット教育学院は、①学生の募集、試験問題の作成、試験の実施、②教育プログラムの編成、教育方法の選定、③学位の授与、④学費の徴収などの業務をおこなっている。この遠隔教育プロジェクトにより、多くの人々が有名大学の資源を活用しながら、高水準の教育を受けられるようになった。

また、中国には一般社会に対して遠隔教育として重要な役割を果たしている放送大学がある³⁾。同大学は1978年に創立されて以来拡充を続けており、現在では中央放送大学をはじめ、44の各省の放送大学、949の地方の放送大学、1823の地方放送大学の分校などから構成されており、中国全域に広げている遠距離教育システムとなっている(図3)。人口が多い同国においては、中国の放送大学は日本の放送大学と比較して、階層的な組織を形成する巨大な生涯教育組織となっている。中央放送大学は中国の国家放送大学であり、中国の教育部が直接に大学を管轄している。この中央放送大学は、全国の放送教育の管理、指導、サービスなどを担当する業務も担っており、教員は451人余りで、2008年末まで、卒業生は700万人に達している(図4)。

地方放送大学は、地方政府が管轄する地方高等教育であり、所属する地域の各放送分校を管理、授業内容の指導しながら地域独特の放送授業内容をも制作し、試験、採点を担当している。ここでは青島放送大学を地方放送大学の例として紹介したい。

青島放送大学は山東省の青島市に位置し、大学教育や遠距離教育、社区教育を一体化する大学である。1979年2月に成立されたキャンパスの建設面積は18万㎡、図書館の所有図書は28万冊余りである。九つの分校を傘下とし、人文科学、工商、経済貿易、化学工業、機械電子、不動産など八つの学院があり、青島市の全域を網羅しており、これまでに46万の卒業生を輩出している。1999年から、北京大学、北京師範大学、中国人民大学、山東大学、南開大学などの名門大学と共同で遠距離教育を実施するようになり、社会からも高い評価を得ている。このように「遠距離

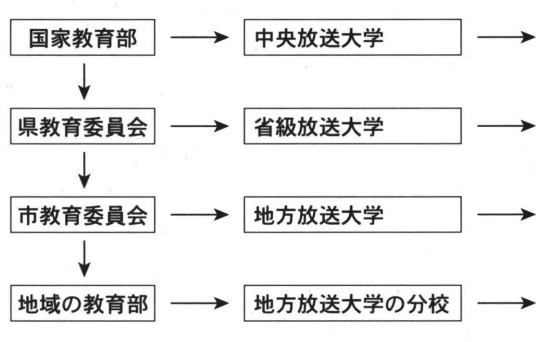


図3 中国の放送大学の組織的実施体制

教育を実施する場所



図4 中国放送大学の受講風景

教育，継続教育を發展させ，生涯学習の社会造り」をモットーにした中国の放送大学は，もっと中国らしい大学作りを目指して發展し続けていると言える。

- (5) 最後に，家庭での教育基盤の整備である「家庭の生涯学習」についても述べたいと思う。「家庭は人生の第一の学校である」ということがこれまで言われ続けてきた。事実多くの人が，その人生の大部分の時間を家庭の環境で過しているために，その環境が生涯学習の成否に大きく関わっている。特に，家庭の学習環境と雰囲気，子供の精神的発達に大きく影響することがこれまでの研究で知られてきた。現在，中国各地で学習型家庭作りは重視されているが，それについての定義はまだ形成されていない。ここでは，中国でモデルになった上海浦東新区の「学習型家庭作り」の実例を挙げてみたい。

浦東新区では，教育，衛生，婦人連合会の三つのシステムが共同で指導グループを創り，家庭教育の計画，調和，調査研究などの任務を担当している。教育システムは0～18歳の保護者の学校を，また衛生システムは新婚夫婦，妊娠の学校を担当している。さらに婦人連合会システムは，女性学校，親子クラブ，家庭教育コンサルティングなどを担当している。これまで，交流会，講座，話し合い，原稿募集，ストーリーの物語りなどの活動を通じて「母親の素質」を高めるための自主的な教育活動を行ってきた。また，従来の講演型や，対話型の生涯学習だけではなく，両親と子供が同時参加した交流会，歌合戦，英語の対話，法律知識のコンテストなどの形式を取り入れながら，2世代の対話型学習の取組を実践してきた。このように，中国で著しく経済發展の成果が遂げた地域においては，知識經濟の衝撃を受けると同時に，学習型家庭作りに対する取組も早期に始まったことから，学習型家庭環境の構築における經濟發展の重要性が示唆される。

3. 今後の課題について

以上，「中国の現代教育体系の四つのシステム」をもとに，実例を挙げながら，中国の生涯学習の実態を述べてきたが，これからの展望として，經濟的に發展途上にある中国では，既存の社会制度

の改革など数多くの問題に直面しながらも、生涯学習体系を本格的に確立していくために、いくつかの肝心な問題を解決しなければならないと考えられる。このように、現代の中国の生涯学習体系が抱えている幾つかの課題について検証してみよう。

第一は、学校は今までの閉鎖的な社会であったが、このような状態を改革して、社会との共同資源として活用出来る体制にするべきであろう。現在の中国では、学校を社会に開放して、地域社会との共用的な利用を促進する試みは、その取組を行っている機関の割合や、取組の時間数などでは世界的に非常に低い水準にあると考えられる。学校と地域の連携は、生涯学習の基本的な特徴であり、現代の地域社会の特徴でもある。学校は地域住民の学習のために、その施設を開放して利用を促進しながら、学校運営に関して社会から支援を求めるべきであろう。現在のように、学校と地域を分離したままの状態は非効率であり、連携の取れた効率的な運営体制の構築が望まれる。

第二は、社会教育の整備に関する問題がある。近年来、教育に関しては、その役割を学校教育に偏重して考える風潮があり、社会教育を軽視する傾向が著しい。そのために、バランス的には学校教育より社会教育の方が停滞しているという面がある。社会教育に関する公的な機関としては、職業訓練機関をはじめ、少年の家（知識教育と教養教育のための組織）、青年の家、文化会館、公民館、博物館、図書館などの機関を挙げることが出来る。中国では、これらの機関はそれぞれ独立して存在しているが、先進国では生涯学習体系として包括されていることが多い。生涯学習の視点から、社会教育機関の役割について、さらに検討するべきであろう。

第三は、住民の側から生涯学習に対する要望を出せるようなレベルにまで、住民の意識高揚を図ることである。現在の中国では、生涯学習の意義に注目しているのは、政府と専門家に限られており、一般社会の要求にはなっていない。例えば、失業後、多くの人々は敏速に就職口を見いだすことにだけ目を向けるが、その際に新しい知識・技能の習得のために努力することが、結果として今後の生活の質の向上につながることを認識していないことが多い。生涯学習体系の確立は、単なる経済と職業の要求を満足させるためだけにあるのではない。生涯学習の基本的な役割は、人々のあらゆる面での学習のニーズに応え、学習の機会を与えることである。つまり、最低限の生存以外に、生活の質を高め人生を豊かにすることであると考えられる。このような生涯学習体系を実現出来る社会を構築するためには、まず住民の生涯学習の意義に関する理解を促す取組が必要である。

第四は、生涯学習の評価制度の確立が必要であるということである。先進国では職業教育機関で受けた教育などについて評価し、その教育成果を正式な学校教育にも取り入れる試みが進められている。中国においても、このことも配慮すべきことである¹⁾。

第五は、生涯学習の組織や管理機関の設立を重視すべきことである。

生涯学習体系は自ら生まれるものではない。行政機関はなくてはならない。生涯学習を組織的に行うために必要な行政機関の設立に向けて、国家のレベルにおいて出来る限り、早期にその実現に向けての政策を立てる必要があると思われる。

このようにして中国では、各種の生涯学習活動が、それぞれの時代の需要に応える形で、様々な

模索を通して、一定の効果を得てきたと思われる。しかしながら現在の生涯学習の実施体制と成果に関しては、まだ初期段階というべき状態にあり、これからも様々な課題を乗り越えるために、新しい取組を導入していくような挑戦が必要な場面に数多く遭遇するに相違ない。世界的にも、生涯学習を充実して社会教育基盤を発展させることは、逆転できない時代の潮流であり、中国においても今後さらに組織的な生涯教育体系を構築するような方向に向けて、積極的な政策として推進していく必要があると思われる。

参考文献

1. 呉忠魁 (2004) 中国の生涯学習体系の確立に関する若干の考察 京都大学 生涯教育学・図書館情報学研究 3 : 123 - 129.
2. 聯鉄珍・戴玲 (2004) 中国における大學と継続教育—哈爾濱工業大學における継続教育の現状 北海道浅井学園大学生涯学習研究所紀要・生涯学習研究と実践 6 : 53 - 61.
3. 胡逢蘭 (2005) 生涯学習から見た中国の電視大學の役割 甲南女子大学大学院論集 (人間科学研究編) 3 : 49 - 58.

Abstract

Development of the life-long study is one of the important subjects for social capital in China. Establishments of private schools provided the competitive situation in the educational society which is formally managed only by the national organization. Furthermore, it has been well prepared of infrastructure for educational system promoted by the development of economy in recent years. However, the officers generally have not recognized that the knowledge is the most important resource and it will result in the maximum effect by the enough investment for education. Therefore, financial support from the government is not enough for the development of educational system. The systematic program for developing strategy have not been planned in the organization level under the lack of specific organization or agency for life-long learning. In the present paper, we discussed on the some problems for development of social capital established by life-long learning in China.